

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果について(小6・中3)

佐伯市では、市内の小学校6年生と中学校3年生を対象とし、平成28年4月19日(火)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。以下は、その集計結果です。

【実施教科】

小6…国語、算数の2教科

中3…国語、数学の2教科

【実施内容】

国語A・算数A・数学A…主として「知識」に関する問題

国語B・算数B・数学B…主として「活用」に関する問題

児童生徒質問紙、学校質問紙・・・生活習慣や学習環境等に関する学習状況調査

【用語解説】

※A問題(主として「知識」に関する問題)

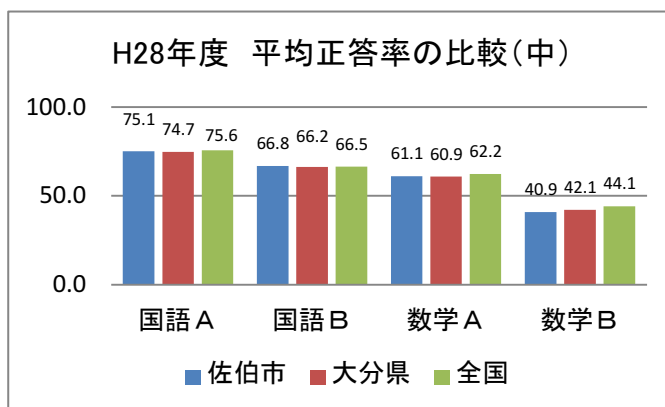
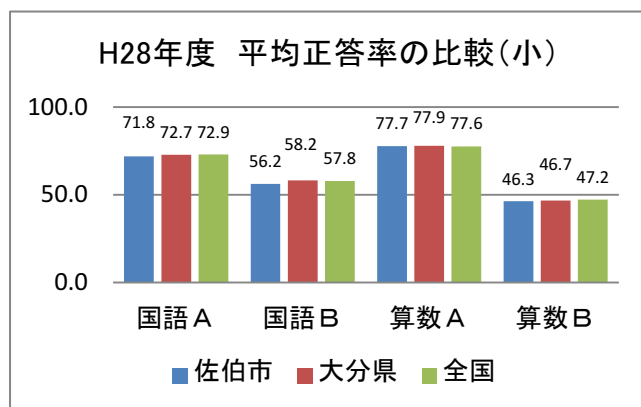
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっておくことが望ましい知識・技能などを中心とした出題

※B問題(主として「活用」に関する問題)

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした出題

【平均正答率(全問題数のうち、どのくらいの問題を正答したかの割合)[%]の全体比較】

	小学校6年生				中学校3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
佐伯市	71.8	56.2	77.7	46.3	75.1	66.8	61.1	40.9
大分県	72.7	58.2	77.9	46.7	74.7	66.2	60.9	42.1
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1



○A問題では、全国の平均正答率に比べ、小学校国語において1.1ポイント下回り、算数において0.1ポイント上回っている。中学校では、国語において0.5ポイント下回り、数学において1.1ポイント下回る結果となっている。

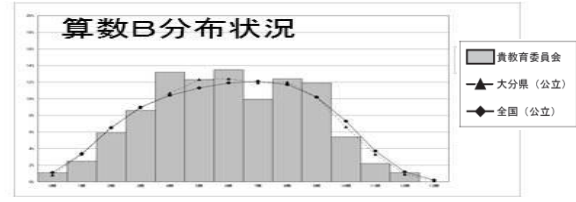
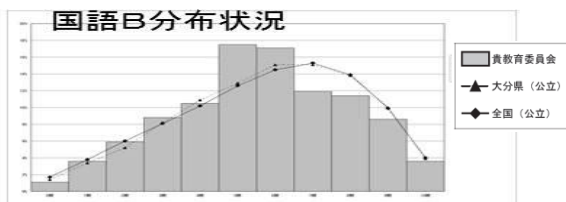
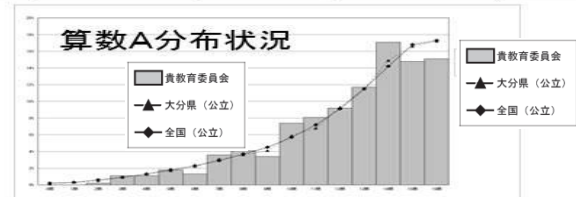
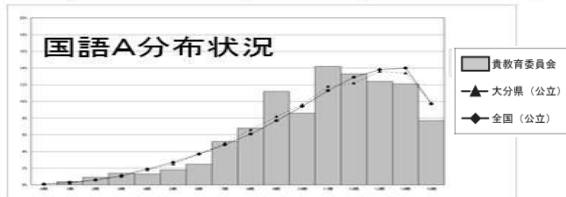
○B問題では、全国の平均正答率と比べ、小学校の国語において1.6ポイント下回り、算数において0.9ポイント下回っている。中学校において、国語で0.3ポイント上回り、数学で3.2ポイント下回る結果となっている。

○昨年度は、小・中学校ともに国語Aが全国の平均正答率を超えていたが、本年度は下回る結果となった。しかし、中学校の国語Bについては、はじめて全国の平均正答率を超える結果となった。

平成28年度全国学力学習状況調査概況(小学校)

H28.4.19実施

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率
佐伯市	10.8/15	71.8	5.6/10	56.2	12.4/16	77.7	6.0/13	46.3
大分県	10.9/15	72.7	5.8/10	58.2	12.5/16	77.9	6.1/13	46.7
全国	10.9/15	72.9	5.8/10	57.8	12.4/16	77.6	6.1/13	47.2



国語A

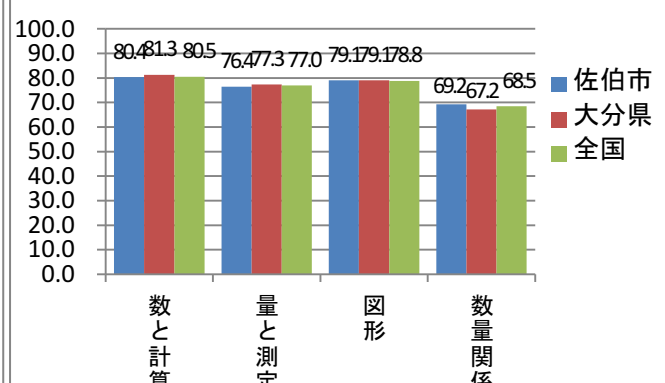
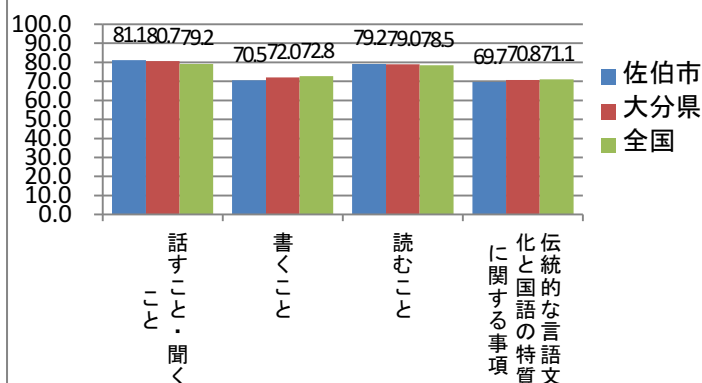
平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	81.1	80.7	79.2
書くこと	70.5	72.0	72.8
読むこと	79.2	79.0	78.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.7	70.8	71.1

算数A

平均正答率(%)

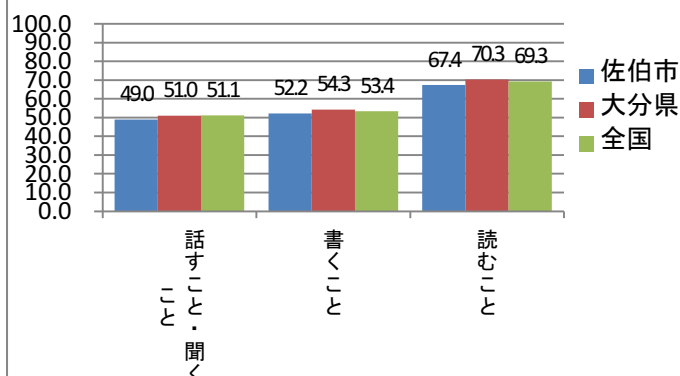
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	80.4	81.3	80.5
量と測定	76.4	77.3	77.0
図形	79.1	79.1	78.8
数量関係	69.2	67.2	68.5



国語B

平均正答率(%)

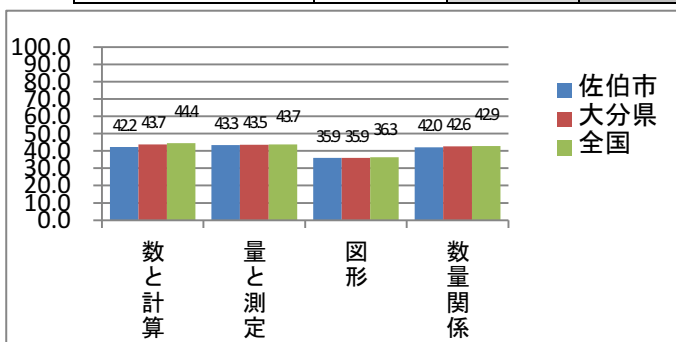
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	49.0	51.0	51.1
書くこと	52.2	54.3	53.4
読むこと	67.4	70.3	69.3



算数B

平均正答率(%)

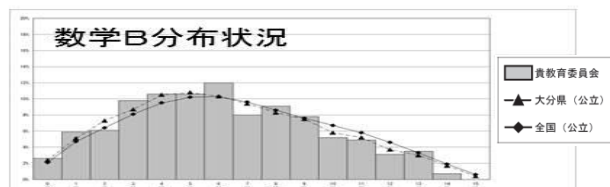
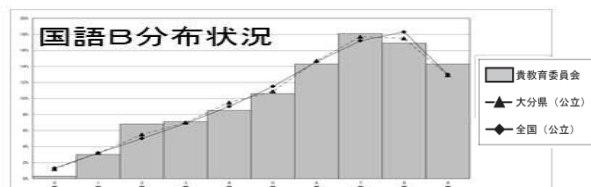
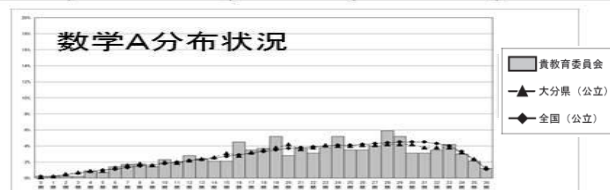
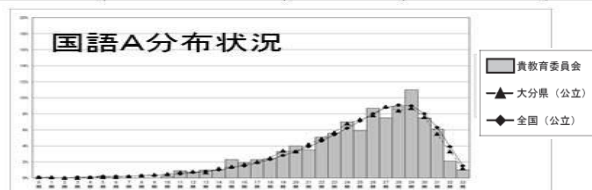
領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と計算	42.2	43.7	44.4
量と測定	43.3	43.5	43.7
図形	35.9	35.9	36.3
数量関係	42.0	42.6	42.9



平成28年度全国学力学習状況調査概況(中学校)

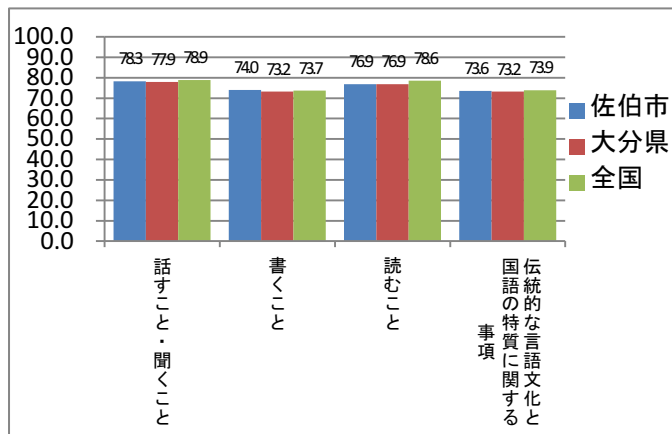
H28.4.19実施

	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率	平均 正答数	平均 正答率
佐伯市	24.8/33	75.1	6.0/9	66.8	22.0/36	61.1	6.1/15	40.9
大分県	24.7/33	74.7	6.0/9	66.2	21.9/36	60.9	6.3/15	42.1
全国	25.0/33	75.6	6.0/9	66.5	22.4/36	62.2	6.6/15	44.1



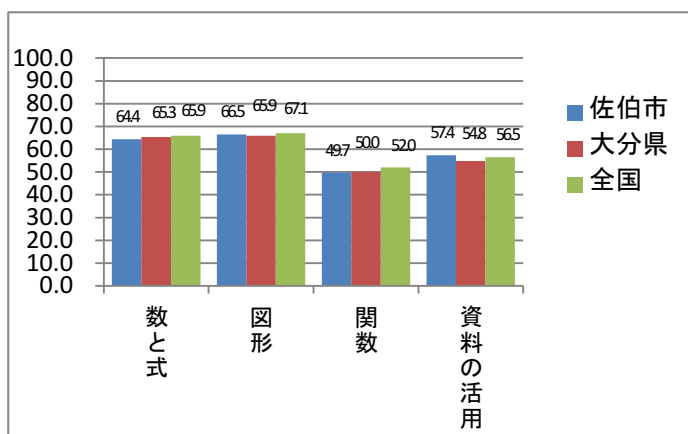
国語A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	78.3	77.9	78.9
書くこと	74.0	73.2	73.7
読むこと	76.9	76.9	78.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.6	73.2	73.9



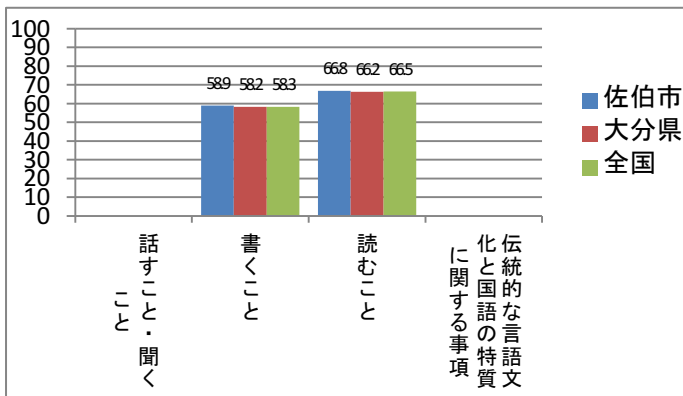
数学A 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	64.4	65.3	65.9
図形	66.5	65.9	67.1
関数	49.7	50.0	52.0
資料の活用	57.4	54.8	56.5



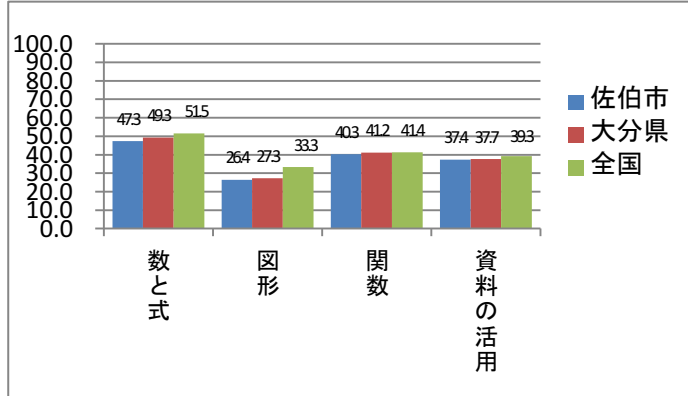
国語B 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと			
書くこと	58.9	58.2	58.3
読むこと	66.8	66.2	66.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			



数学B 平均正答率(%)

領域別正答率	佐伯市	大分県	全国
数と式	47.3	49.3	51.5
図形	26.4	27.3	33.3
関数	40.3	41.2	41.4
資料の活用	37.4	37.7	39.3



小学校国語

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	71.8%
大分県の平均正答率	72.7%
全国の平均正答率	72.9%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数15問

◇平均正答率80%以上の問題・・・6問（大分県6問、全国5問）

◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・6問（大分県7問）

◆平均正答率60%未満の問題・・・4問（大分県3問、全国3問）

◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・8問（大分県8問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◆〔12(3)〕「先生にそうだんする」を書く。(56.0%)

→「相談」という漢字を正しく書くことに課題がある。

◆〔8-1〕ローマ字を書く（りんご）(48.5%)

◆〔8-2〕ローマ字を書く（あさって）(41.3%)

◆〔8-3〕ローマ字を読む（h y a k u）(48.3%)

→平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることに課題がある。

【書くこと】

◆〔3〕ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する。(63.2%)

→書き手の表現の仕方をよりよくするために助言することに課題がある。

②具体的な改善方策

○漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定する。

- ・書いた文章を互いに読み合い、漢字のもつ意味を考えながら正しく使用しているかどうかを評価し合う。
- ・同音異義の漢字や、「親」のように複数の読み方をもつ読み替え漢字に注意しながら文を作り、それぞれの漢字の意味を確認する。

○ローマ字の規則性を押さえて学習する

- ・ローマ字には、ヘボン式や訓令式などがあることに配慮しながら、仮名五十音と対応させて、ローマ字表記を使うように指導する。また、濁音、半濁音、長音、拗音、促音、撥音などについて、音声と関係付けながら規則性があることに気付き、身に付けることができるようにするとともに、当該学年での学習にとどまらず、繰り返し読んだり書いたりする機会を増やす必要がある。
- ・学校名、氏名、住所等をローマ字で書くような場を、意図的・計画的に設ける。
- ・地名や人名などの固有名詞を含む日常使われている簡単な単語をローマ字で書いて紹介する。

○目的や意図に応じて、表現の仕方をよりよくするために助言し合う。

- ・低学年、中学年から、互いに文章を読み合い、よさを見付けて感想を伝え合ったり、意見を述べ合ったりするなどの活動を書くことの学習過程に位置付け、文章を評価する力を高めていく。
- ・書く目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、考えたことを十分反映させ、文章全体の構成を考えながら適切に書くことができるようにする。助言し合う場合においては、児童が文章の種類や特徴を捉えた上で、書く目的や意図に応じた文章構成や表現になっているかどうかについて具体的に助言するようにする。

小学校国語

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	56.2%
大分県の平均正答率	58.2%
全国の平均正答率	57.8%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数10問

◇平均正答率70%以上の問題・・・2問（大分県2問、全国2問）

◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・2問（大分県6問）

◆平均正答率50%未満の問題・・・3問（大分県1問、全国1問）

◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・8問（大分県4問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【話すこと・聞くこと】

◆〔1一〕スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを作成した際の工夫した点として当てはまらないものを選択する。（47.0%）

→目的に応じて、質問したいことを整理することに課題がある。

◆〔1二〕スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する。（49.4%）

→質問の意図を捉えることに課題がある。

【書くこと】

◆〔2一〕「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する。（41.1%）

→グラフを基に、分かったことを的確に書くことに課題がある。

【読むこと】【書くこと】

◆〔3三〕「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く。（50.1%）

→目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。

②具体的な改善方策

○質問したいことを整理し、インタビューメモを作成する。

- ・インタビューメモを作成するには、調査等の目的をはっきりさせ、これまでに分かっていることや目的に応じて必要な事柄について調べたことを基にして、質問の具体的な内容や順序などを考えていくようにする。また、各教科等の学習において、調査の目的に応じて質問したいことを整理する方法などについて、国語科で学習したことを各教科等の学習でも活用できるよう、年間指導計画を見通して意図的・計画的に指導する。

○相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。

- ・インタビューの目的に応じて、相手の意図は何か、自分の予想との違いは何か、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを観点として、相手の話を注意深く聞くことができるように指導する。

○図表やグラフを基に分かったことを的確に書く。

- ・社会科や算数科などで学習した図表やグラフの読み方を生かし、読み取ったことを的確に表現することができるように指導していく。

○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。

- ・何のために、どのようなことが必要かなどを明確にした上で、文章の重要な点を表現に即して的確に捉えるようにする。その際、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意して読むようにする。

小学校算数

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	77.7%
大分県の平均正答率	77.9%
全国の平均正答率	77.6%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数16問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・6問（大分県5問、全国6問）
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・8問（大分県10問）
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・1問（大分県1問、全国1問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・8問（大分県6問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【数と計算】

- ◆〔1（1）〕 $\square \div 0.8$ の商の大きさについて、正しいものを選ぶ。（63.4%）
→除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解することに課題がある。
- ◆〔1（2）〕 $2.1 \div 0.7$ を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く。（64.1%）
→除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解することに課題がある。

【数量関係】

- ◆〔9（2）〕定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く。（52.1%）
→1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解することに課題がある。

②具体的な改善方策

○計算の結果を適切に見積もることができるようにする。

- ・場面や状況に応じた見積もりの経験を豊かにしたり、計算の結果を具体的な場面に当てはめて吟味したりする。また、除数、被除数と商の大きさの関係を、適切に捉えることができるようにする。

○除法の性質の理解の上に立って、小数の除法の計算の仕方を理解できるようにする。

- ・除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても商は変わらないという除法の性質が成り立つことを確認した上で、小数の除法を整数の除法に置き換える活動を取り入れるようにする。

○基準量と比較量の関係を正しく捉えることができるようにする。

- ・基準量と比較量の関係を数直線などを用いて捉える場面を設けるようにする。その際、問題場面を数直線などに表現する手続きを覚えるのではなく、問題場面がどのようなことを表しているのかを理解し、そのイメージを数直線などを用いて表現するようにする。

小学校算数

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	46.3%
大分県の平均正答率	46.7%
全国の平均正答率	47.2%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数13問

◇平均正答率70%以上の問題・・・2問（大分県3問、全国3問）

◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・3問（大分県1問）

◆平均正答率50%未満の問題・・・8問（大分県7問、全国7問）

◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・10問（大分県12問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

＜課題があるとみられる問題＞

【数と計算】

◆〔2(2)〕40mハードル走の目標のタイムを求める式に8.1と4を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く。(45.6%)

→示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることに課題がある。

◆〔2(3)〕目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く。(14.2%)

→示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述することに課題がある。

【図形】

◆〔5(1)〕示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く。(4.3%)

→示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することに課題がある。

②具体的な改善方策

○問題解決のために、問題場面と式を関連付けた上で、計算の順序に基づいて正しく計算できるようにする。

- ・四則の混合した計算を用いることが必要な問題場面において、式と関連付けるようにする。また、日頃から計算で求めた結果について、実際の場面に当てはめてその結果が適切かどうか振り返って確かめる習慣を身につけることができるよう指導する。

○日常生活の事象と式を関連付け、式の意味や数値の意味を解釈し、説明することができるようにする。

- ・言葉の式を提示し、事象と式を関連付けながら、式や数値の意味を解釈する場を設定する。

○図形と式を関連付けて、式の意味を説明することができるようにする。

- ・図形と式を関連付けて、式の意味を説明することができるようにする。360を120でわる理由について、図形俊樹を関連付けながら、360°の中に二等辺三角形の角が何個入るかを求めるために除法を用いていることを明らかにしていく。

中学校国語

佐伯市の平均正答率	75.1%
大分県の平均正答率	74.7%
全国の平均正答率	75.6%

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数33問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・18問(大分県16問、全国17問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・12問(大分県7問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・6問(大分県7問、全国5問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・21問(大分県26問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【読むこと】

- ◆〔6二〕文章について説明したものとして適切なものを選択する。(62.4%)
→文章の構成や展開について自分の考えをもつことに課題がある。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆〔9一2〕漢字を書く(今までにないドクソウ的な考えだ)。(23.5%)
→文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。
- ◆〔9三オ〕適切な語句を選択する(会長候補として、白羽の矢が立つ)。(43.0%)
→語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。
- ◆〔9六〕題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する。(28.4%)
→文字の形や大きさ、配列に注意して書くことに課題がある。

②具体的な改善方策

○文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつ。

- ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けることができるようにする。図や表を用いながら情報を整理して段落ごとの内容を捉え、文章全体がどのように構成されているかについて自分の考えをもつ。

○日常的な漢字の学習。

- ・既習の漢字を日常的に使用するように指導するとともに、漢和辞典や国語辞典などを活用してそれぞれの漢字の部首や意味などについても確認させる。また、各教科等における学習の中で漢字を適切に使用するように指導する。

○場面に即した語句・語彙指導の工夫。

- ・語句の意味について理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、文脈上の意味を考えることを習慣化できるように指導する。教師が意識的に慣用句やことわざなどを用いて話したり、掲示物や配布物に取り入れたりするなど、言語環境を整えることも効果的である。

○字形を整え、文字の大きさ、配列などに注意して書く。

- ・書写の学習において、書いたものについて生徒が互いに評価し合う場面を設けることが考えられる。特徴的な事例を示し、全体で観点を確認した後、個人やグループで書いたものを検討するなどの活動を行ってみる。また、社会生活の中で見られる文字の大きさや配列の工夫などについて適宜取り上げ、目的や必要に応じて効果的に書くことを意識させる。

中学校国語

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	66.8%
大分県の平均正答率	66.2%
全国の平均正答率	66.5%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数9問

- ◇平均正答率70%以上の問題・・・4問（大分県3問、全国3問）
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・4問（大分県4問）
- ◆平均正答率50%未満の問題・・・0問（大分県0問、全国1問）
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・5問（大分県5問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【書くこと】【読むこと】

- ◆〔2三〕宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く。
(51.6%)
→課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることに課題がある。
- ◆〔3三〕図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く。(53.0%)
→本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

②具体的な改善方策

○課題の解決に向け、見通しをもって情報を収集する。

- ・自ら情報を収集しながら課題の解決を図る学習の際には、新聞や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などを活用する必要がある。その際、課題の解決までの見通しをもち、状況に応じて適切な情報収集の方法を選択するように指導する。
学校図書館の利用に当たっては、小学校での学習内容を踏まえ、日本十進分類法や本の配置についての知識を生かしたり、コンピュータを使って検索したりするなど複数の情報収集の方法を考えるように指導する。

○自分の考えや気持ちと根拠との関係について吟味する。

- ・文学的な文章を読む際に、必要に応じて語注や脚注、百科事典や図鑑などの資料を参考にし、そこから得た情報を補足することによって、場面の様子などについてより想像を広げたり理解を深めたりすることができる場合がある。そのためには、学校図書館や地域の図書館、公共施設、あるいはコンピュータや情報通信ネットワークなどそれぞれの特徴を生かした適切な情報収集の方法を身に付けることが大切である。また、資料から得た情報を踏まえることで、より想像が広がったり理解が深まったりした内容について、根拠を明確にして説明し合うように指導する。併せて、根拠として示した内容が自分の考えや気持ちを支えるものになっているかどうかについて吟味するようにする。

中学校数学

A問題の分析

(主として「知識」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	61.1%
大分県の平均正答率	60.9%
全国平均正答率	62.2%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数36問

- ◇平均正答率80%以上の問題・・・6問(大分県5問、全国4問)
- ◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・12問(大分県8問)
- ◆平均正答率60%未満の問題・・・15問(大分県14問、全国14問)
- ◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・23問(大分県28問)

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【数と式】

- ◆〔1(1)〕 $\frac{2}{5} \times 0.6$ を計算する。(59.1%)
→分数と小数の乗法の計算に課題がある。
- ◆〔1(2)〕 $-5, 0, 1, 2.5, 4$ の中から自然数を全て選ぶ。(34.0%)
→自然数の意味の理解に課題がある。
- ◆〔2(1)〕ある数を3でわると、商が a で余りが2になるとき、ある数を a を用いた式で表す。(29.4%)
→数量の関係を文字式に表すことに課題がある。
- ◆〔3(2)〕一元一次方程式 $2x=x+3$ の解について、正しい記述を選ぶ。(42.9%)
→一元一次方程式の解の意味の理解に課題がある。

【関数】

- ◆〔9(2)〕比例 $y=2x$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める。(32.8%)
→比例の式について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることに課題がある。
- ◆〔10(1)〕一次関数の表からグラフを選ぶ。(54.5%)
→一次関数のグラフの特徴について、表と関連付けて理解することに課題がある。

②具体的な改善方策

○分数や小数を含む計算ができるようにする。

- ・誤った解答例を取り上げ、計算過程を振り返りながら、どこに誤りがあるかを見だし、乗数と被乗数を小数や分数にそろえる方法や小数の位取りに着目して、正しい計算の仕方を確認する活動を取り入れる。

○数の集合を捉え直し、自然数や整数の意味を理解できるようにする。

- ・数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から自然数や整数を判断する活動を取り入れ、0は整数に含まれるが、自然数には含まれないことを確認する。

○事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるようにする。

- ・具体的な数や言葉を使った式を利用したり図に表したりして事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるように指導する。

○方程式の解の意味を理解できるようにする。

- ・様々な数を方程式の文字に代入して、それらが解であるかを検討する場面を設定し、方程式の解の意味を理解できるように指導する。

○ x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができるようにする。

- ・ x の値の増加に伴って、 y の値がどのように変化するかを調べる活動を取り入れ、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができるように指導する。

○一次関数の表とグラフの特徴について、それらを関連付けて理解できるようにする。

- ・一次関数の表からグラフの傾きや切片を読み取り、その符号や絶対値によって直線のグラフの傾き具合や、 y 軸との交点の座標を判断する活動を取り入れることで、一次関数の表とグラフの特徴を関連付けて理解できるようにする。

中学校数学

B問題の分析

(主として「活用」に関する問題)

佐伯市の平均正答率	40.9%
大分県の平均正答率	42.1%
全国の平均正答率	44.1%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数15問

◇平均正答率70%以上の問題・・・2問（大分県2問、全国2問）

◇平均正答率が全国を上回っている問題・・・3問（大分県2問）

◆平均正答率50%未満の問題・・・11問（大分県10問、全国9問）

◆平均正答率が全国を下回っている問題・・・12問（大分県13問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<課題があるとみられる問題>

【数と式】

◆〔1(2)〕葉月さんの提案を取り入れたとき、1試合の時間を求めるための方程式をつくる。(26.8%)
→与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することに課題がある。

◆〔6(2)〕文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する。(10.3%)
→与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することに課題がある。

【関数】

◆〔2(2)〕 $x=4$ のとき $y=9$ になるように、 x と y の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する。(16.2%)
→加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することに課題がある。

【図形】

◆〔4(1)〕2つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する。(20.0%)
→筋道を立てて考え、証明することに課題がある。

②具体的な改善方策

○目的に応じて条件を設定し、数量の関係を数学的に表現することができるようにする。

- ・実生活の場面での問題を解決する活動を取り入れ、目的に応じて必要な条件を設定し、数量の関係を数学的に表現できるようにする。

○文字を用いて処理した結果に基づいて、問題解決の方法を説明できるようにする。

- ・文字を用いて処理した手順を数学的に考察する場面を設定することで、処理した式を読み取り、問題解決の方法を説明できるようにする。

○前提として必要な条件を判断し、それが適している理由を説明できるようにする。

- ・前提となる条件が不足している問題について考察する場面を設定し、付加する条件を判断し、それが適している理由を説明できるようにする。

○事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考え、証明できるようにする。

- ・結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、証明できるようにする。

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値
着色は全国平均以上の項目。◎は昨年度より上昇、▼は低下した項目

【小学校】授業に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
53	目標（めあて・ねらい）が示されていた	◎ 60.4	56.9	57.7	76.8
54	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた	◎ 43.1	39.9	37.7	58.0
55	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた	▼ 76.0	67.4	76.9	85.1
33	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	57.8	47.9		64.4
60	授業の中で分からないことがあっても、そのままにしておく	▼ 5.8	4.9	4.7	3.4
48	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた	▼ 53.2	53.2	56.4	66.0
49	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた	▼ 49.0	45.2	50.2	60.2
7	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意	◎ 23.4	21.2	19.9	19.8
8	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	▼ 47.0	56.3	55.2	65.6
47	先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた	34.6	30.7		41.2
50	自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた	▼ 35.5	29.4	39.4	44.7
51	学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた	32.1	33.4		43.5
52	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた	25.8	24.0		30.4
57	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい	▼ 39.1	34.1	40.1	15.1
58	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい	▼ 27.4	23.9	28.6	19.1
59	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	◎ 29.7	26.4	26.9	38.7

【小学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
14	普段（月～金曜日）、1時間以上勉強する	▼ 68.9	62.5	73.1	72.1
15	学校が休みの日に、1時間以上勉強する	▼ 63.1	57.0	66.4	85.0
16	学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしている	▼ 35.4	46.1	38.2	22.2
17	普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書をする	◎ 37.3	36.5	36.6	37.4
21	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	▼ 26.8	26.7	31.5	42.1
22	家で、学校の宿題をしている	▼ 85.0	88.0	88.4	90.1
23	家で、学校の授業の予習をしている	◎ 13.0	16.7	12.5	25.2
24	家で、学校の授業の復習をしている	▼ 26.5	23.5	27.3	65.5
25	家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している	37.7	34.5		39.7

【小学校】学びに向かう力に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	◎ 73.3	71.9	68.7	77.6
5	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している	▼ 26.3	25.3	28.5	31.6
21	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	▼ 26.8	26.7	31.5	42.1
26	学校に行くのは楽しいと思う	◎ 55.9	55.2	54.2	59.0
27	学校で、友達に会うのは楽しいと思う	80.4	82.9		85.3
28	学校で、好きな授業がある	79.3	79.9		83.5
29	あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めている	◎ 46.3	39.6	43.1	58.3
30	話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている	18.7	18.0		32.8
31	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	◎ 61.8	58.5	51.0	70.8
32	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	51.4	42.2		55.0

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値
着色は全国平均以上の項目。◎は昨年度より上昇、▼は低下した項目

【中学校】授業に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
53	目標（めあて・ねらい）が示されていた	◎ 58.4	47.6	56.8	79.3
54	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた	◎ 31.3	23.3	29.2	50.2
55	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた	◎ 57.7	43.8	53.8	74.0
33	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	35.5	28.2		42.5
60	授業の中で分からないことがあっても、そのままにしておく	▼ 10.5	7.3	8.9	4.7
48	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた	▼ 43.9	43.5	44.4	61.8
49	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた	▼ 43.4	34.9	44.7	58.3
7	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意	◎ 19.6	17.6	17.2	16.8
8	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	◎ 54.7	55.1	52.9	66.6
47	先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた	33.9	27.4		39.7
46	自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた	◎ 22.9	18.1	16.6	39.5
51	学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた	24.7	25.4		39.9
52	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた	21.2	17.0		26.3
57	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい	▼ 32.2	36.2	36.2	14.0
58	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい	▼ 29.7	30.3	33.1	14.3
59	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	◎ 22.0	20.2	19.1	31.4

【中学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
14	普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上勉強する	▼ 26.1	34.2	36.5	29.8
15	学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強する	▼ 47.4	40.1	50.3	64.4
16	学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしている	◎ 44.6	61.0	44.2	30.1
17	普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書をする	▼ 28.9	28.2	29.5	33.1
21	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	▼ 15.9	16.0	16.7	26.2
22	家で、学校の宿題をしている	◎ 77.1	68.1	72.4	78.0
23	家で、学校の授業の予習をしている	▼ 5.1	11.9	6.5	13.1
24	家で、学校の授業の復習をしている	▼ 16.3	18.4	23.7	53.0
25	家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している	28.7	36.5		34.7

【中学校】学びに向かう力に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	◎ 75.2	72.7	70.6	81.4
5	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している	◎ 21.9	19.0	20.3	23.6
21	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	▼ 15.9	16.0	16.7	26.2
26	学校に行くのは楽しいと思う	▼ 52.3	48.4	53.9	53.0
27	学校で、友達に会うのは楽しいと思う	76.9	75.8		78.7
28	学校で、好きな授業がある	58.2	54.7		67.7
29	あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めている	◎ 41.1	38.9	33.4	57.1
30	話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている	15.4	17.8		31.7
31	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	◎ 59.8	57.9	55.3	69.1
32	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	31.3	32.2		45.1

2 児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・各質問項目において、全国値を超えているものが多い。
- ・授業の中で分からないことがあっても、そのままにしておく解答した児童生徒の割合が増えているため、対策が必要である。
- ・めあてや振り返りが位置付けられた授業は増えてきているが、さらに徹底する必要がある。
- ・小中学校ともに、家庭学習時間の達成度が低くなっているため、学習内容や方法等の手立てを講じる必要がある。
- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」等の割合が増えており、「学びに向かう力」を育む取組の成果が現れてきていると考えられる。

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値
着色は全国平均以上の項目。◎は昨年度より上昇、▼は低下した項目

【小学校】授業に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
36	授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた	▼ 76.0	70.9	92.3	89.1
37	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた	▼ 60.0	50.1	69.2	73.8
41	授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した	▼ 76.0	65.2	84.6	89.1
20	自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができている	32.0	21.1		30.2
38	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた	◎ 52.0	29.2	42.3	42.6
39	様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした	▼ 36.0	33.5	42.3	46.0
40	発言や活動の時間を確保して授業を進めた	▼ 48.0	48.4	53.8	59.4
42	学級やグループで話し合う活動を授業などで行った	◎ 76.0	53.6	65.4	66.3
44	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	▼ 12.0	20.2	30.8	23.3
45	本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した	◎ 52.0	30.6	38.5	23.8
46	資料を使って発表ができるよう指導した	◎ 32.0	27.9	23.1	25.2
47	自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした	▼ 36.0	29.9	42.3	33.7
56	I C Tを活用して、協働学習や課題発見・解決型の学習指導を行った	◎ 28.0	16.7	26.9	10.9
54	ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行った	36.0	31.1		37.6
53	学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価した	▼ 40.0	49.7	50.0	53.5
17	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる	▼ 16.0	11.4	19.2	16.8
18	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる	◎ 32.0	21.9	30.8	37.1
19	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	◎ 16.0	9.0	11.5	13.9
21	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる	4.0	5.3		5.4
14	児童は、熱意をもって勉強していると思う	◎ 36.0	26.3	26.9	35.1
15	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	▼ 56.0	39.1	57.7	47.0

【小学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
92	国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	◎ 88.0	86.5	80.8	67.8
93	国語の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	◎ 80.0	68.7	65.4	74.3
94	算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	◎ 92.0	87.7	80.8	71.3
95	算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	◎ 80.0	69.6	69.2	74.8
96	保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った	◎ 64.0	55.8	61.5	69.3
97	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った	◎ 52.0	43.7	38.5	66.8
99	家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた	◎ 52.0	40.1	46.2	60.4
100	予習・復習や宿題をさせる際に、教科書の活用（自宅等で教科書を読むなどを含む）を促した	56.0	43.8		52.5
98	家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた	▼ 20.0	25.3	23.1	30.7
25	放課後を利用した補足的な学習サポートを週2、3回以上実施した	◎ 36.0	17.9	26.9	14.4

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な解答の数値
着色は全国平均以上の項目。◎は昨年度より上昇、▼は低下した項目

【中学校】授業に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
36	授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた	◎ 91.7	60.9	76.9	88.7
37	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた	◎ 58.3	40.0	38.5	68.7
41	授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した	◎ 58.3	39.3	30.8	70.4
20	自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができている	0.0	16.1		28.7
38	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた	▼ 25.0	25.1	38.5	47.0
39	様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした	◎ 16.7	26.2	0.0	42.6
40	発言や活動の時間を確保して授業を進めた	◎ 50.0	36.3	23.1	58.3
42	学級やグループで話し合う活動を授業などで行った	▼ 58.3	39.3	61.5	72.2
44	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	◎ 16.7	15.8	0.0	30.4
45	本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した	◎ 25.0	21.3	7.7	24.3
46	資料を使って発表ができるよう指導した	◎ 25.0	21.2	7.7	31.3
47	自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした	◎ 33.3	24.4	23.1	33.9
56	I C Tを活用して、協働学習や課題発見・解決型の学習指導を行った	▼ 16.7	11.4	23.1	10.4
54	ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行った	33.3	26.8		36.5
53	学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価した	◎ 41.7	42.6	30.8	59.1
17	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる	▼ 0.0	10.2	7.7	12.2
18	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる	◎ 16.7	24.0	7.7	37.4
19	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	▼ 0.0	9.3	7.7	12.2
21	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる	0.0	5.5		5.2
14	生徒は、熱意をもって勉強していると思う	◎ 33.3	23.6	23.1	41.7
15	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う	◎ 41.7	51.1	38.5	64.3

【中学校】家庭学習に関すること

NO	項目	H28佐伯	H28全国	H27佐伯	H28秋田
90	国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	▼ 50.0	53.4	61.5	36.5
91	国語の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	▼ 41.7	52.2	61.5	53.9
92	数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた	◎ 91.7	56.4	53.8	53.9
93	数学の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導した	◎ 83.3	52.9	46.2	61.7
94	保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った	▼ 8.3	36.0	15.4	41.7
95	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った	▼ 25.0	33.2	38.5	45.2
97	家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた	◎ 25.0	29.9	15.4	53.0
98	予習・復習や宿題をさせる際に、教科書の活用を促した	8.3	28.9		38.3
96	家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた	◎ 8.3	15.0	7.7	13.9
25	放課後を利用した補充的な学習サポートを週2、3回以上実施した	▼ 41.7	15.6	53.9	17.4

2 学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・目標を示すことや、話し合う活動、学習内容を振り返る活動を取り入れた授業については全国値を上回っているが、小学校においては昨年度の値を下回る結果となっている。
- ・中学校において、自分の考えを伝えることや、相手の考えを聞くこと、さらに自分の考えを深めたり広げたりすることに課題があるため、話し合い活動における内容の充実を図る取組を進める必要がある。
- ・小中学校ともに、児童生徒が熱意を持って勉強していると思う割合が増えている。
- ・家庭学習の充実に向けた取組について、小学校では改善の傾向が見られるが、中学校では、校内での共通理解や家庭との連携について、取組の見直しが必要と思われる。

今後の取組について

○各校における学力向上プランの確実な遂行

- ・各校で学力調査の分析を行い、課題の改善策について共通理解し、組織的に実践する。
- ・短期のPDCAサイクルで検証・改善を進める。

○「目標達成に向けた組織的な授業改善推進手引き」を活用した校内研修の推進

- ・学校の重点的課題、重点目標と連動した5点セットの作成と、実践的研修を充実させる。

○「新大分スタンダード」に基づく授業の質の向上

- ・「めあて・課題・まとめ・振り返り」の質の向上を意識した授業実践。
- ・生徒指導の三機能を意識した授業実践。
- ・各学校における実践を、佐伯市学力向上実践研究事業において交流・普及を進める。
- ・佐伯市学校教育研究会教科部会と連携し、部会研究と重ねて授業改善の取組を進める。

○家庭学習指導の見直し

- ・宿題の内容や出し方、点検、併せて家庭との連携の在り方を校内で検討し、実践する。

○学びの基盤となる学級集団づくり、仲間づくり

- ・児童生徒自らが「絆」を感じ取り、紡いでいくための主体的に取り組む協同的な活動の実施と、取組のサポート。